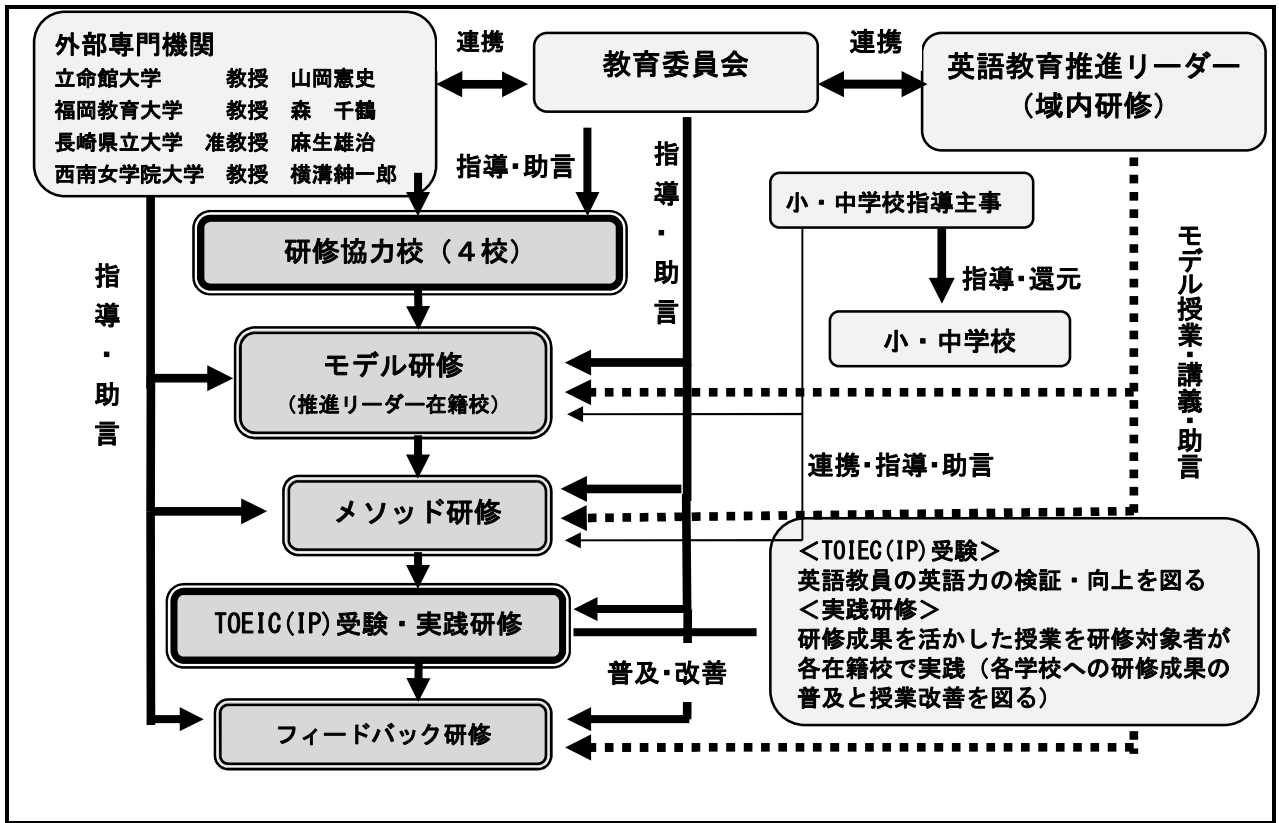


福岡県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

【高校】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
52	65	56	70

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (7) 平成28年度より、福岡県英語教員指導力向上研修の参加教員全員に助成によりTOEIC(IP)テストを受験させ、英語教員の英語力の検証・向上を図る。
- (4) 本事業を活用し、新規採用英語科教員全員に英語検定準1級以上（日本英語検定協会）の資格取得に係る費用の助成を行い、英検を受験させることにより教員の英語力の検証・向上を図る。毎年資格取得者数を15名程度とする。

【中学】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
23.3	37	27	46

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (7) 4年間で全英語教員を対象とした県主催の英語教員指導力向上研修を実施し、教員の英語力を向上させる。
- (4) 福岡県指導主事等研修会（外国語分科会）において、県内の教育事務所及び政令市（中核市）を含む教育委員会に対し、英語力向上のための具体的な数値目標を設定するように依頼

する。

- (ウ) 福岡県教育センター英語教員の研修において、受講者が積極的に資格取得を目指すための啓発を図る。

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

【高校】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
40	55	38	60

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (7) 本事業を核として教員の指導力向上及び学習指導要領の趣旨に沿った4技能統合型の授業の充実を図り、生徒の総合的英語力を向上させる。
- (イ) 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標について達成状況の把握までを行うことができるよう本事業における研修会や教育課程研究集会で指導と啓発を行う。実践研修において、「CAN-DOリスト」の達成目標を活かした授業を行う。
- (ウ) 本事業をとおして、生徒の積極的な英語検定試験等の資格取得が、各学校で普及するような指導を行う。

【中学】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
28	33	27	38

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (7) 4年間で全英語教員を対象とした県主催の英語力・指導力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、4技能を統合化した授業の充実を図り、生徒の総合的英語力を向上させる。
- (イ) 福岡県教育委員会が主催する「中学生英語宿泊体験」において、参加者の英語検定3級以上の取得状況を90%以上とする。
- (ウ) 「中学生英語宿泊体験」に参加した生徒に対して、参加後の体験報告会を行うとともに、積極的な英語検定試験等の資格取得を目指すように呼びかける取組を実施する。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

【高校】

ア 数値指標

	H27	H28	H28	H29
指標内容	現状	目標値	現状	目標値
設定(%)	95	100	97	100
公表(%)	14	50	14	60
達成状況の把握(%)	39	50	47	60

イ 目標達成のための具体的な手立て

設定については、平成25年度に通知を出しており、平成26年度に全ての県立高等学校において作成を完了した。公表及び達成状況の把握については、平成29・30年度中に各学校の「CAN-DOリスト」の内容を向上させ、さらに活用・評価にまでつなげる指導を本事業の研修会と教育課程研究集会で実施する。

【中学】

ア 数値指標

	H27	H28	H28	H29
指標内容	現状	目標値	現状	目標値
設定(%)	24	75	100	100
公表(%)	3.4	40	10	50
達成状況の把握(%)	13	50	30	60

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 4年間で全英語教員を対象とした県主催の英語力・指導力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、学習到達目標（CAN-DOリスト形式）の設定、活用方法について理解させ、設定率及び達成状況の把握率を向上させる。
- (イ) 平成28年度の福岡県指導主事等研修会の外国語部会において、学習到達目標（CAN-DOリスト形式）の意義やその作成に向けた各市町村教育委員会の取組等について協議を深めながら、段階的にその必要性を示し、県内の中学校における達成状況の改善を図る。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【高校】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
34	50	34	60

イ 目標達成のための具体的な手立て

本県は、平成24年度から平成26年度まで実施した研修会において、4技能を総合的に育成する授業の普及を図ってきた。平成27年度以降の研修で全英語教員を対象とした県主催の英語教員指導力向上研修を実施し、研修会の成果を各学校に還元・普及を行い、英語教員の言語活動に係る指導力向上を図ることにより、言語活動の充実をさらに加速させる。

【中学】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
60	65	67	70

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語力・指導力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、4技能を統合化した授業の充実を図ることにより、生徒の英語による言語活動時間の占める割合を向上させる。
- (イ) 福岡県学力実態調査（中学校第3学年英語）を実施し、生徒の英語力に関する成果と課題を分析する。また、生徒の課題については、福岡県が発行する指導冊子「授業改善のストラテジー」において言語活動を重視することや、4技能の統合化の例を示しながら生徒の言語活動の充実のための啓発を図る。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【高校】

ア 数値目標

	スピーキングテスト				ライティングテスト			
	H27	H28	H28	H29	H27	H28	H28	H29
	現状	目標値	現状	目標値	現状	目標値	現状	目標値
コⅠ	6回	6回	9回	10回	2回	5回	5回	6回
コⅡ	4回	5回	4回	6回	1回	4回	4回	6回
コⅢ	1回	3回	1回	4回	1回	4回	1回	4回
英Ⅰ	5回	6回	6回	8回	6回	6回	9回	10回
英Ⅱ	2回	3回	3回	6回	4回	6回	7回	8回

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語教員指導力向上研修を実施し、パフォーマンステストに関する指導・助言を行う。
- (イ) スピーキングテストについて
スピーキングテストの実施については、評価を意識したテストを実施する時間の確保が課題である。この課題を解決するために、スピーキングテストの具体的な実施方法に関するモデルを提示し、段階的な普及を図りたい。
- (ウ) ライティングテストについて
ライティングテストは平成27年度までの研修においてノウハウが確立されており、平成28年度からは研修会において、定期考査の工夫・改善を含めた実施のさらなる徹底を図る。

【中学】

ア 数値目標

スピーキングテスト				ライティングテスト			
H27	H28	H28	H29	H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値	現状	目標値	現状	目標値
2.6回	3回	2.7回	3回	2.2回	3回	1.9回	3回

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象に実施する県主催の英語力・指導力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修において、パフォーマンステストの方法について指導する。
- (イ) ALT指導力等向上研修において、パフォーマンステストについて協議し、具体的な評価方法についてモデルを作成し、実施の普及を図る。
- (ウ) 福岡県指導主事等研修会外国語部会でライティングテストの実施・改善に向けた協議を行うとともに、実施のための時間確保やライティングテストの妥当性について検討する。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

【高校】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
33	65	32	70

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語教員指導力向上研修を実施し、教員の英語使用についての研修を実施する。
- (イ) 重要な要素は「教員の英語力向上」及び「生徒の英語による言語活動時間の充実」と考える。したがって、その2つを実行することで使用率向上を図る。
- (ウ) 本事業の中の実践研修において、教員の英語使用率の割合を設定させ、それに向けた授業

改善ができるように、研修の充実を図る。

【中学】

ア 数値指標

H27	H28	H28	H29
現状	目標値	現状	目標値
44	50	61	55

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象に実施する県主催の英語力・指導力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修において、教員の英語使用について指導する。
- (イ) 指導主事による学校訪問の際に、ALTとのチームティーチングにおいて、言語活動中心の授業の設定と英語で授業を進めることについて指導する。
- (ウ) ALT指導力等向上研修において、JTEに英語での言語活動の事例等を示したり、海外研修経験者にワークショップを依頼するなどしたりすることで教師の英語による指導方法についてモデルとして示す場を設定する。

⑦域内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

【高校】

ア 数値指標

	H27	H28	H28	H29
指標内容	現状	目標値	現状	目標値
研修実施回数	15回	16回	16回	20回
研修受講者数	97人	115人	128人	165人

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 本事業による研修会を年間20回実施することを計画している。計画を確実に実施する事により目標を達成する。
- (イ) モデル研修、メソッド研修、実践研修、フィードバック研修の計4段階の研修を通して、参加者の授業改善を図り、最終的に研修成果を各学校へ普及させる。

【中学】

ア 数値指標

	H27	H28	H28	H29
指標内容	現状	目標値	現状	目標値
研修実施回数	9回	14回	14回	14回
研修受講者数	50人	230人	201人	141人

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 2年間で全英語教員を対象とする県主催の英語力・指導力向上研修（年4回）及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修（2回）を実施し、教育事務所や市町村単位の研修の充実を図る。

中央研修に参加した教員については、教育事務所の研修や福岡県教育センターの研修等において、講師を依頼するとともに、ALT研修会等でも積極的に活用する予定である。

(3) 研修の体系と内容の具体

【平成29年度】

【高等学校】

1 運営会議

(1) 対象者

研修協力校学校代表者、英語教育推進リーダー、英語教育推進リーダー中央研修者

(2) 目的・内容

事業の平成28年度年間計画及び運営、各研修会の内容、英語力評価テストの実施、スピーキングテストの在り方、域内研修等について検討する。

(3) 実施回数

年2回実施

2 モデル研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

福岡県英語教育推進リーダーによるモデル授業と、外部有識者、研修受講者による授業研修及び授業方法に関する協議を実施し、研修対象者に4技能統合型授業の具体的なイメージをつかませる。また、英語教育推進リーダーの講義を行い、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

4回(各学校1回・計4回)

(4) 受講予定者

165名

3 メソッド研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

指導方法により重点を置いた研修であり、参加対象者が学習指導要領に沿った授業の参観と事後の研究協議に参加することにより、4技能統合型の実践的な指導方法を学ぶ。また、英語教育推進リーダーによる講義を受けることによって、具体的な授業方法に関する知識を習得し、指導力を向上させる。

(3) 実施回数

12回(各学校3回・計12回)

(4) 受講予定者

165名

4 TOEIC (IP) 受験

(1) 対象者

県立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

研修対象教員全員に TOEIC(IP)の受験させることにより、英語教員の英語力の検証・向上を図る。また、受験後に英語教育推進リーダーの講義を行い、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修対象者

165名

5 実践研修

(1) 対象者

県立高等学校英語科教員

(2) 目的・内容

モデル研修とメソッド研修で学んだ、指導方法に関する知識と各学校のCAN-DOリストの目標を基に、参加教員がそれぞれの在籍校で研修成果を活かした授業を実践する。授業実施後は、各学校で研究協議を行い、研修成果の普及と各学校における授業改善を図るものとする。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修予定者

165名

6 フィードバック研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

研修の総括、研修内容の普及に向けた協議及び外部有識者による指導助言を行う。また、英語教育推進リーダーによる講義を実施し、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

4回(各学校1回・計4回)

(4) 研修予定者

165名

【小・中学校】

1 英語教育推進リーダー連絡会議

(1) 対象者

英語教育推進リーダー

(2) 目的・内容

平成29年度小学校教員・中学校英語教員の英語力・指導力向上研修の内容及び方法について検討する。

(3) 実施回数

2回

2 メソッド研修

(1) 対象者

英語教育推進リーダー、市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

英語教授法に関する講義、CAN-DOリストの作成・活用に関する講義・演習、言語活動に関する演習、文部科学省作成研修用DVDの活用等をとおして、言語活動の在り方や技能統合型の実践的な指導方法を学ぶ。また、英語教育推進リーダーによる講義を受けることによつて、具体的な授業方法に関する知識を習得し、指導力を向上させる。

(3) 実施回数

8回(県全体で実施：2回、各教育事務所単位で実施：6回)

(4) 受講予定者

450名(小学校309名 中学校141名)

3 英語力研修 (TOEIC (IP) 受験)

(1) 対象者

市町村立中学校英語教員

(2) 目的・内容

研修対象教員全員で TOEIC(IP)を受験することにより、英語教員の英語力の検証・向上を図る。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修対象者

141名

4 実践研修

(1) 対象者

市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

メソッド研修で学んだ指導方法に関する知識と各学校のCAN-DOリストの目標を基に、参加教員がそれぞれの在籍校で研修成果を活かした授業を実践する。小学校は授業公開を基にした校内研修会を1回、文部科学省作成研修用DVD等を活用した校内研修会を1回実施する。中学校は、授業研修を2回実施する。授業実施後は、各学校で研究協議を行い、研修成果の普及と各学校における授業改善を図るものとする。

(3) 実施回数

2回

(4) 研修予定者

450名（小学校309名 中学校141名）

5 フィードバック研修

(1) 対象者

英語教育推進リーダー、市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

研修の総括、研修内容の普及に向けた報告及び協議を行う。また、英語教育推進リーダーによる講義を実施し、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

6回(各教育事務所単位で実施)

(4) 研修予定者

450名（小学校309名 中学校141名）

【平成30年度】

【高等学校】

1 運営会議

(1) 対象者

研修協力校学校代表者、英語教育推進リーダー、英語教育推進リーダー中央研修者

(2) 目的・内容

事業の平成30年度年間計画及び運営、各研修会の内容、英語力評価テストの実施、スピーキングテストの在り方、域内研修等について検討する。

(3) 実施回数

年2回実施

2 モデル研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

福岡県英語教育推進リーダーによるモデル授業と、外部有識者、研修受講者による授業研修及び授業方法に関する協議を実施し、研修対象者に4技能統合型授業の具体的なイメージをつかませる。また、英語教育推進リーダーの講義を行い、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

4回(各学校1回・計4回)

(4) 受講予定者

160名

3 メソッド研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

指導方法により重点を置いた研修であり、参加対象者が学習指導要領に沿った授業の参観と事後の研究協議に参加することにより、4技能統合型の実践的な指導方法を学ぶ。また、英語教育推進リーダーによる講義を受けることによって、具体的な授業方法に関する知識を習得し、指導力を向上させる。

(3) 実施回数

12回(各学校3回・計12回)

(4) 受講予定者

160名

4 TOEIC (IP) 受験

(1) 対象者

県立高等学校英語科教員

(2) 目的・内容

研修対象教員全員に TOEIC(IP)の受験させることにより、英語教員の英語力の検証・向上を図る。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修対象者

160名

5 実践研修

(1) 対象者

県立・公立高等学校英語科教員

(2) 目的・内容

モデル研修とメソッド研修で学んだ、指導方法に関する知識と各学校のCAN-DOリストの目標を基に、参加教員がそれぞれの在籍校で研修成果を活かした授業を実践する。授業実施後は、各学校で研究協議を行い、研修成果の普及と各学校における授業改善を図るものとする。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修予定者

160名

6 フィードバック研修

(1) 対象者

外部有識者、英語教育推進リーダー、研修協力校教員、県立・公立高等学校英語教員

(2) 目的・内容

研修の総括、研修内容の普及に向けた協議及び外部有識者による指導助言を行う。また、英語教育推進リーダーによる講義を実施し、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

4回(各学校1回・計4回)

(4) 研修予定者

160名

【小・中学校】

1 英語教育推進リーダー連絡会議

(1) 対象者

英語教育推進リーダー

(2) 目的・内容

平成30年度小学校教員・中学校英語教員の英語力・指導力向上研修の内容及び方法について

て検討する。

(3) 実施回数

2回

2 メソッド研修

(1) 対象者

英語教育推進リーダー、市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

英語教授法に関する講義、CAN-DOリストの作成・活用に関する講義・演習、言語活動に関する演習、文部科学省作成研修用DVDの活用等をとおして、言語活動の在り方や技能統合型の実践的な指導方法を学ぶ。また、英語教育推進リーダーによる講義を受けることによって、具体的な授業方法に関する知識を習得し、指導力を向上させる。

(3) 実施回数

8回(県全体で実施：2回、各教育事務所単位で実施：6回)

(4) 受講予定者

422名(小学校312名 中学校110名)

3 英語力研修 (TOEIC (IP) 受験)

(1) 対象者

市町村立中学校英語教員

(2) 目的・内容

研修対象教員全員で TOEIC(IP)を受験することにより、英語教員の英語力の検証・向上を図る。

(3) 実施回数

1回

(4) 研修対象者

110名

4 実践研修

(1) 対象者

市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

メソッド研修で学んだ指導方法に関する知識と各学校のCAN-DOリストの目標を基に、参加教員がそれぞれの在籍校で研修成果を活かした授業を実践する。小学校は授業公開を基にした校内研修会を1回、文部科学省作成研修用DVD等を活用した校内研修会を1回実施する。中学校は、授業研修を2回実施する。授業実施後は、各学校で研究協議を行い、研修成果の普及と各学校における授業改善を図るものとする。

(3) 実施回数

2回

(4) 研修予定者

422名(小学校312名 中学校110名)

5 フィードバック研修

(1) 対象者

英語教育推進リーダー、市町村立小学校教員・中学校英語科教員

(2) 目的・内容

研修の総括、研修内容の普及に向けた報告及び協議を行う。また、英語教育推進リーダーによる講義を実施し、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

6回(各教育事務所単位で実施)

(4) 研修予定者

422名(小学校312名 中学校110名)

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	研修の運営に係る協議 第1回運営会議【高等学校】 第1回英語教育推進リーダー連絡会議【小・中学校】	
5月	モデル研修（英語教育推進リーダー在籍校）【高等学校】 メソッド研修①【中学校】	モデル研修における講義・指導・助言
6月	メソッド研修①（各研修協力校）【高等学校】 メソッド研修①【小学校】 第2回英語教育推進リーダー連絡会議【小・中学校】	メソッド研修における指導・助言
7月	メソッド研修①（各研修協力校）【高等学校】 メソッド研修②【小学校】 実践研修【小・中学校】	メソッド研修における指導・助言
8月	メソッド研修②【中学校】 メソッド研修③【小学校】	
9月	メソッド研修②（各研修協力校）【高等学校】 メソッド研修③【中学校】 英語力研修（TOEIC(IP)受験）【中学校】	メソッド研修における指導・助言
10月	メソッド研修③（各研修協力校）【高等学校】 TOEIC(IP)受験（県教育センター）【高等学校】 実践研修（各研修対象者在籍校）	メソッド研修における指導・助言
11月	フィードバック研修（各研修協力校）【高等学校】 実践研修（各研修対象者在籍校）【高等学校】 実践研修【小・中学校】 フィードバック研修【小・中学校】	フィードバック研修における指導・助言
12月	フィードバックシートの提出【高等学校】 研修報告書の提出【小・中学校】	
1月		
2月		
3月	第2回運営会議【高等学校】 年度反省と次年度に向けた準備	教育委員会との年度反省
【その他の取組】		

